

「双京構想」に関する有識者ヒアリング 概要

日時：平成25年3月21日（木）午前10時～11時30分

場所：京都平安ホテル1階 金閣の間

出席者(50音順・敬称略)：岩倉具忠（京都大学名誉教授、霞会館理事）

所 功（京都産業大学名誉教授）

冷泉貴実子(公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長)

【天皇皇后両陛下や皇族の方々に頻繁かつ長期に御滞在いただくことについて】

- 首都直下型地震の危険に備えるために京都にお住まいいただくというようならえ方をされないように留意した方がよい。
- 平常時に、皇族の方にお出ましいただく行事を積み重ね、京都に滞在される機会を増やしていくことがよいのではないか。
- 災害を避けて京都へ移るといふようなことは、陛下御自身が納得されないと思われる。それよりも、より頻繁に京都へお越しいただき、長期に御滞在いただけるようにすることが、もともと京都の方であるためよいのではないか。
- 両陛下にもっと京都へ来てくださいといふことはできるが、そのためにはどういう態勢でお迎えすることができるかといふことを真剣に考えなくてはいけない。(大宮御所の改築、警備体制の強化など)
- 将来的に皇居そのものが京都へ移られることを大目標にしてはどうか。リニアが開通するなど、時間的な距離も今後縮小していくため、「文化首都・京都」に皇居があるといったことも十分選択肢として成り立つ。

【京都へ来られる皇族の方々の御活動等について】

- 京都は国際都市であり、日本の研究は京都でなければできないことも多い。日本の皇族の方々は、学問に精通しておられるから、学術的な催しの場へお出ましいただきたいという気持ちをお伝えすることがよいのではないか。
- 1月の懇話会で、皇室の行事の一部を京都で行うという提案が出された。しかし、今の皇室の行事を京都に持ってくることは、現実的には難しい。それよりも、明治維新でなくなってしまった宮中の年中行事を京都で復活することなら実現しやすいのではないか。
- 京都で催される行事に皇族の方々がお出ましくくださることは、府民が皇室について考えることにつながるのではないか。
- 再現する行事は五節句がよいと考える。それも誰かが創造したものではなく、確実な史料などに記された本来の内容で行うことが重要ではないか。

【当面の必要な取組について】

- 皇族の方々に、京都へお出ましいただくにふさわしい形の行事を考える必要がある。
- 8月（旧暦7月）に「京の七夕」としてオール京都で事業が取り組まれている。その一環として宮中で行われてきた七夕（乞巧奠）の行事を御所で行うことを検討してはどうか。現在、御所で一般公開の時に蹴鞠が行われている。
- 蹴鞠は宮内庁主催で行われている。御所で行事を行うには、京都府などが宮内庁へ働きかけを行い、協力していくことが必要。
- 「古典の日」が法制化されたことも踏まえ、京都にいらっしゃる皇族の方にお出ましいただき、お言葉や御講演をいただくことなどが実現できないか。
- 皇族の方々は名誉を与えるお立場であるから、京都の古典文化を継承し発展に尽力されている方々などを表彰していただく場があればよいのだが。
- 外国の要人が観光目的で京都に来られることも多いが、その時に皇族の方が着物姿でお迎えいただければ、なによりのおもてなしになるのではないか。